



e-La Voz
「エー・ラ・ボス」と読みます

HCJB『アンデスの声』
日本語放送
メールマガジン
(第31号)

2005年6月26日発行

<TSUNAMIから半年> 子供たちにほほえみを —ユニセフ日本人スタッフ 青木佐代子—

2004年12月26日に発生したスマトラ沖地震・津波は、震源地にもっとも近かったインドネシアのアチェ州をはじめとして、インド洋沿岸の近隣地域に甚大な被害をもたらしました。なかでもアチェ州は、被害の規模がきわめて大きいことに加え、分離・独立派とインドネシア治安当局の間との武力衝突がこれまで30年近く継続していることから、救援、復興活動をすすめる上でいろいろな困難が生じています。そんななか、ユニセフ[国連児童基金]では、災害後直ちに被災した子供たちの緊急援助計画を実施に移しました。今年4月に日本人スタッフとしてアチェ州に派遣された青木佐代子さんからこのほど現地レポートがとどきましたので、今日はご紹介しましょう。

「スマトラ島北端に足をふみ入れてあっという間に2ヶ月が飛び去ってしまいました。その間多忙で休みもとれず便りもできなくてご心配をおかけしたことをお詫びいたします。今は被災地の生徒たちを学校によりもどす運動でおおわらわです。7月18日から新学年が開始されますのでそれまでにひとりでも多くの子供たちに復学して欲しいと願っています。現在私がチームリーダーとして関わっている教育プロジェクトは次のとおりです。

1. プレハブによる仮設校舎200棟の新設
2. 生徒用机、椅子21,000人分、学用品(鉛筆・ノート・かばんなど)83万人分の配布
3. 1,200人の教師に災害対策の講習を受けさせた上で地方の学校へ派遣
4. ユニセフで再建予定の300校と修理予定の200校の工事計画経過を視察
5. 州・町村役員、NGO、その他援助団体代表を集めて、相互に問題討議できる場を提供
6. 教育専門家不在の諸機関へのサービス

ざつとこれだけの範囲で仕事をしていますが、今のすすみ具合では到底学期開始までに完了というわけにはいきそうもありません。実はわたしの友人が7月30日に米国ワシントンDCで結婚式をあげるので出席したかったのですが、どうもかないそうもありません。なにしろアメリカまで飛んでいくのに33時間、それに学校が始まっても、まだ不足しているものがあるのに責任者がいないのでは無責任すぎます。私自身も生徒たちが新しい校舎で教科書や学用品を手にしてよろこんでいる姿をみるまでは、ここを離れることはできません。まるでアチェ州とニアス島に住む83万人の母親になった気持ちです。

アチェの子供たちもなついてくれ、いつも名前をよんでくれます。私の名前は「Sayo」ですが、インドネシア語の「Saya(I, me, mine)」や「Sayan (my darlingーいとしの人)と発音が似ているのですぐにおぼえてくれました。巨大地震と津波をくぐりぬけた子供たちですが顔は明るく目も輝いています。勿論、恐怖からの後遺症で情緒不安定や学習障害をおこしている児童もすくなくありません。しかし全体として災害にめげず強く前向きにすすもうとしている姿には



私の方が励まされています。私も被災地の人たちと力をあわせ、みんなの顔にほほえみが浮かび、笑い声にみちた生活がもどってくる日を目指してこれから2年間、自分の情熱と愛と生命をささげて奉仕したいと願っています。

【写真右端が青木佐代子さん。その左隣りがインドネシアのユニセフ親善大使クリスティン・ハキムさん。女優で大人気。】

赤道に近いスマトラ沖北端アチェ州での生活は想像以上に大変です。余震のつづく中、食事時間も制限されて思うようにならぬ、シャワーのかわりのバケツでの水浴びは冷水で茶色っぽく濁っており、仕事は一日15時間、週末はなく、ヘリコプターでの移動、視察先ではテントやマットレス一枚だけ夜明かしなど、生活環境ではストレスがたまる一方です。日ごろは涙もろい私ですが、このところは泣いているひまさえありません。そういうえばここ2ヶ月で涙を流したのは2回だけでした。いちどは友人から電話で「あなた、すこし疲れ気味よ。」と慰めのことばをかけられてポロリと落涙。そのあとはとどくはずの学校備品が来なくて、待ちわびる子供たちに同情して口惜し涙がこぼれました。

なにはともあれ、災害復興に向けた教育専門家ではほかに適任者がいるはずなのに、私のようなものが選ばれて、この地で実にやり甲斐のある仕事をまかされていることには感謝してもしきれません。この天職あればこそ、どんな時にも私のこころからよろこびの歌があふれ出て、明日への意欲がわいてきます。これからも頑張りますので、よろしくお願ひいたします。

アチェより愛をこめて

青木佐代子

(Sayo Aoki, Head of Education Section, UNICEF Aceh Zone Office)

青木佐代子さんのプロファイル:

埼玉県出身。「アンデスの声」リスナー。NGO(エクアドル・米国勤務)。世界銀行(米国勤務)。ユニセフ(ペルー・米国勤務)。エクアドル滞在中「赤道で逢いましょう」番組に数回出演。アンデスの山、音楽、ジャングル体験、インカ・トレイルとマチュピチュ遺跡、北極体験などを語る。毛利衛と仲間たち著「赤道に降りた宇宙飛行士 エク！」(講談社)のコーディネーター。

HCJB日本語放送担当

在住 戻崎一夫 久子

【ホームページのご案内】

HCJB日本語放送のホームページ(<http://www.hcjb.org/japanese/>)には、リスナー・コミュニケーションのためのふれあいコーナー「フォーラム」(<http://www.hcjb.org/japanese/forums/>)と、メールマガジンのバツクナンバーを揃えた「メールマガジン e-La Voz らいぶらり」(<http://www.hcjb.org/japanese/mmz/>)のページがあります。どうぞご利用ください。

このメールマガジンは、HCJB日本語放送の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、[HCJB日本語放送](#)までお送りください。

また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録も[HCJB日本語放送](#)までメールにてお知らせください。なお、メール・リストは配信先メール・アドレスのみで管理されていますので、配信先変更をご希望の場合には、現在登録されている配信先も併せてお知らせください。



Copyright © 2005 by HCJB. All rights reserved.

日本語ホームページ: <http://www.hcjb.org/japanese/>

Eメール: kozaki@hcjb.org

郵便の宛先:

Mr. & Mrs. Kazuo Ozaki

1920 Berkshire Pl., Wheaton, IL 60187-8050, U. S. A.
